

編集後記

第8巻もこの号で終りとなる。私の本棚の中でも次第にスペースを大きく取りはじめ、眺めていると、他の雑誌の中で一生懸命自己主張をしているようで面白い。

本号の特集は義肢・装具である。義肢にし、装具にし、新しい工夫は、広く用いられて実用性が証明されないと、その仲間に入れてもらえない、しかも一度その仲間入りが完成した頃には目新しさを失ってしまうという運命を持っている。その意味で常に新しい工夫が方々でテストされていないと、この分野における進歩に結びつかない。

兵庫県リハビリテーションセンターの澤村氏は多数の症例についての過去の成績と新しい部分品のテスト結果について述べている。4リンク機構による「ふり出し」を容易にする試みや、空気圧制御シリンダーによる遊脚期調節等、義足研究の大きなテーマである「遊脚期調節」と取り組まれている事が推察でき、心強い。

首藤氏は能動手の随意ひらきとじ手についてのフィールドテストについて述べている。現在まではそのどちらかであったが、両方を一緒にすると機能自体は増加するだろうが、その操作が煩雑になる恐れがあり氏の今後の

研鑽に期待する。常に、しつこいほど試行する事がこの分野では大切だと思う。

石神氏は脳卒中患者の長下肢装具使用者の追跡調査結果について述べている。片麻痺患者では長下肢装具の独りでの装着が困難な人が多く、40%がその使用を断念する事、障害受容への積極的なアプローチと早期の充実したリハビリテーションの必要性を強調している点は、注目せねばならない。

江口氏には困難なテーマをうまくまとめ上げていただいた。61施設のアンケート結果でも装具を積極的に利用する方が多いという事で意を強くした次第である。

渡辺氏の下肢免荷用装具の論文では坐骨受けの部分での体重のかかり方をロードセルで検出して居り興味ぶかい。また PTB 装具の足部により免荷度に差が生じるという結論は、実用的であり貴重なものであろう。

他に奥氏のリフトに関する報告、板山氏の第6回身体障害者実態調査の結果などの重要な論文を掲載する事ができ、第8巻の最終号として見ごたえのあるものにし得た事を安堵の溜息とともに述べ、寄稿して下さいの皆様

(明石 謙)

次号予告(第9巻第1号)

特集 機能回復のメカニズム

中枢神経系における機能代償の形態学:

発芽現象を中心に……………都立神経病院 別府 宏 岡

中枢神経系における機能代償の生理学:

シナプス結合の可塑性……………阪大・基礎工学部 藤戸 裕・他

運動学習の神経機構……………三菱化成・生命科学研究 川村 浩・他

学習と記憶の心理学……………慶大・文学部 小谷津 孝 明

巻頭言 今年市民啓蒙に重点を……………日大・理工学部 野村 欽

研究と報告 定量的重心動揺測定に関する研究……………山口大・理療部 浅海 岩生・他

股義足の処方について:

装着後の遠隔成績から……………兵庫県・リハセンター 澤村 誠志・他

関節リウマチの外反足に対する装具療法の

生体力学的検討……………秋田大・整形外科 鈴木 堅 二

講座 リハ医のためのリウマチ・膠原病入門

1. 総論……………東大・保健学科 佐々木 智 也

活用すべきリハ関連諸制度 1. 相談機関……………関東通信 高田 玲 子

一頁講座 リハにおけるコンピュータの応用

1. リハ領域におけるコンピュータの利用……………労災義肢センター 土屋 和 夫

意見と声 身体障害者実態調査結果概要の

発表をみて思うこと……………東京コロニー 調 一 興

隠されたマイノリティー身障者実態調査の罪……………富津市 石坂 直 行

学会報告 第29回関東地方リハ医学懇話会……………自治医大 大井 淑 雄

編集顧問

天児 民 和
大島 良 雄
小池 文 英
杉山 尚
砂原 茂 一
津山 直 一
水野 祥太郎

編集委員

明石 謙
上田 敏
大井 淑 雄
大川 嗣 雄
千野 直 一
土屋 弘 吉
横山 巖

編集同人

赤津 隆
今田 拓
今村 哲 夫
江口 壽榮夫
荻島 秀 男
小野 啓 郎
加倉井 周一
河邨 文一郎
五味 重 春
斉藤 正 也
沢村 誠 志
武智 秀 夫
永井 昌 夫
中村 隆 一
野島 元 雄
間 得 之
長谷川 恒雄
橋倉 一 裕
福井 罔 彦
三島 博 信
渡辺 英 夫
田中 照 子
小川 孟
野村 欽
小島 蓉 子
笹沼 澄 子
鈴木 明 子
高田 玲 子
林 玉 子
土屋 和 夫
松村 秩

(細田, 山田)